

岩瀬が生んだ海の豪商―道正屋 馬場家

馬場家は、江戸後期から活躍した北前船主・廻船問屋の家です。屋号は「道正屋(どうしょうや)」で、道正村（現・富山市道正）より移り住んだことに由来します。

当家は19世紀前半、7代当主久兵衛のころより、北前船交易を活発に行い、隆盛の礎を築きました。

明治中期、8代当主道久のとき、北前船から汽船経営に舵を切り、明治36年（1903）には馬場合資会社を設立、近代的な海運業者へと成長しました。また、他分野においても、銀行の設立など富山の産業振興に貢献しました。

当家は「岩瀬五大家」の筆頭に挙げられ、北陸の「五大北前船主」のひとつにも数えられています。

馬場はるは、下新川郡泊町（現在の朝日町）の旧家、小沢家の生まれです。15歳のとき、8代当主道久の息子、大次郎（のちの9代当主道久）の妻となりました。

大正8年（1919）、夫が亡くなり、当時33歳だったはるは若くして一家を支える立場となりました。

はるは、馬場家を守ると同時に、先代の遺志を継ぎ、社会貢献も積極的に行いました。なかでも特筆すべきなのが、旧制富山高等学校（現在の富山大学人文学部・理学部）設立のための寄附でした。寄附金は総額で160万円（現在の10～20億円程度）にも及びました。このほかにラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の旧蔵書も同校へ寄附しており、現在も「ヘルン文庫」（富山大学附属図書館内）として広く活用されています。

高校は大正13年（1924）に開校され、翌年現在の富山市蓮町に新校舎が完成しました。跡地は現在馬場記念公園となっています。廃校となる昭和25年（1950）までの卒業生は約3,300名で、様々な分野において活躍する優秀な人材を多く輩出しました。

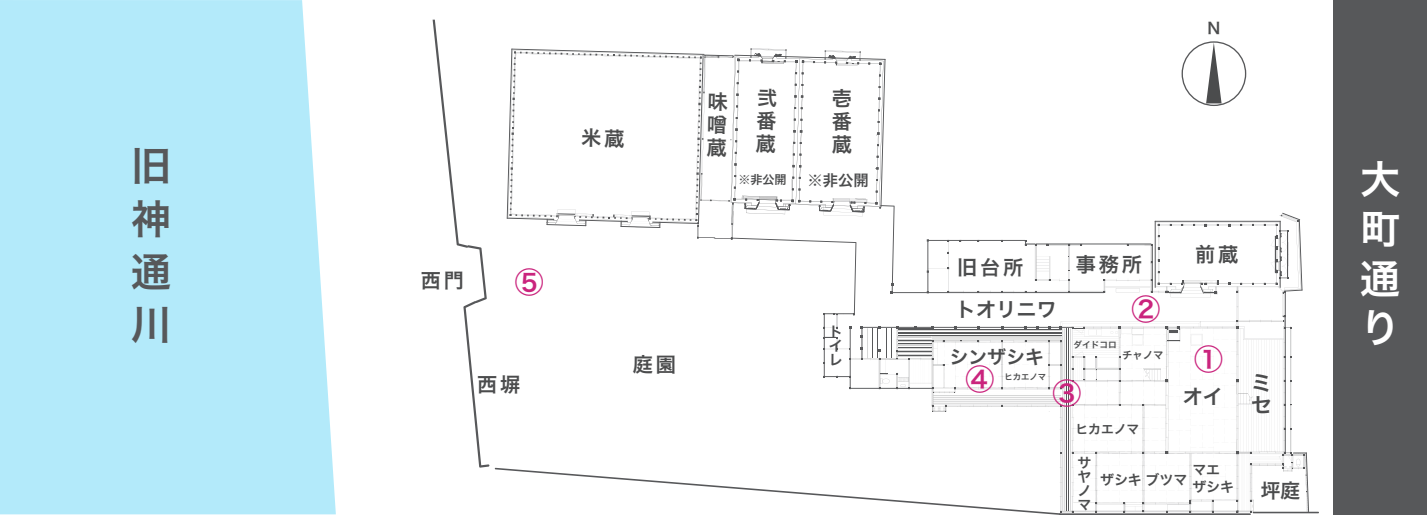


馬場はる
(1886年～1971年)



主屋2階より港側を望む

当住宅は、明治6年（1873）の大火の後、以前の部材を用いて建てられたと考えられています。東岩瀬町の中でも最大規模の住宅です。敷地内には主屋のほかに三階建ての前蔵・忝番蔵・忝番蔵、二千石の広大な米蔵、西門及び西塀が現存し、廻船業が盛んであった当時の面影が残っています。平成28年8月に国の登録有形文化財となりました。当住宅は令和3年1月より一般公開され、一部貸室も行っています。



①オイとミセ

江戸時代の形に復原した、豪壮な梁組が見える33畳ものオイ（広間）。左側のミセ部分は、明治期、洋風に改修されました。



②トオリニワ

長さ30メートル、幅2.7メートルにも及ぶ土間通路。天窓から入り込む光で明るく、奥行きある空間に圧倒されます。



③縁側から望む庭園

L字型の長い縁側でつなげる座敷と新座敷からは、ともに庭園を眺め楽しむことができます。



④シンザシキ

昭和初期に増築した部分。繊細なつくりの建具や、モダンな装飾が施された水回りなど、当時の流行があらわれています。



⑤西門

裏にあたる西門・西塀は、昭和初期まで神通川に面しており、海への玄関口として上質なつくりとなっています。